福井県図書館協会報　No. 35

福井市下馬町51-11
県立図書館内　県図書館協会発行

お泉水

2005年3月

◎平成16年度全国図書館大会

「瀬戸内の風にのせて、未来へ発信」と題して、第90回全国図書館大会・香川大会が平成16年10月27日から29日にかけて、香川県高松市で開催された。

初日の全体会では、日本図書館協会理事長の基調報告のあと、「讃岐うどんブームの仕掛けとメディアの役割」と題して、四国学院大学教授　田尾和俊氏による記念講演が行われた。氏は、香川県の穴場うどん店探訪集団「麺通団」を結成し、探訪記をタウン情報誌に掲載して現在の讃岐うどんブームの先駆けとなった人である。

講演では、誰を対象にして発信するか？対象者をどのように動かしたいか？を決めることで、情報のどの部分をどのようにして発信するかが決まってくる。等々を、時には笑いがおきるほど軽快に語られた。

２日目の分科会（公共図書館）では基調講演のあと分散会に移り、基調講演「ハイブリッド・ライブラリーの可能性と課題」に続いて、荒川区立図書館及び岡山県立図書館の事例発表が行われた。最終日の全体会では、シンポジウムとそれに対する質疑応答があり、最後に大会のまとめが報告され閉会した。

（丸岡町民図書館　大倉　守）

◎平成16年度全国公共図書館 総合・経営部門研究集会
～社会の変化に対応した図書館経営の在り方～

公共図書館は、財政的な面からの影響、市町村合併後の経営課題、指定管理者制度の導入問題など図書館経営に関する課題も多くなってきている。今回の研究集会では、各公共図書館が抱えている様々な経営の課題の中から図書館業務の委託の方法、市町村合併後の新しい図書館経営に視点を当てた方策や、社会の変化に対応した今後の図書館経営の在り方について話がなされた。

まず地方自治法の改正での「指定管理者制度」では、すべての自治体が制度導入を検討している状況であり、全国第一号としては北九州市のあくね市立図書館が挙げられるそうである。業務委託については、窓口業務の委託がかなりの公立図書館であるが、宮崎市のようにNPO法人「MCLボランティア団体」に全面業務委託をしていて成功している例もある。市町村合併に伴う合併後の図書館経営については、南アルプス市立図書館が紹介され、４町２村の合併により組織の見直し、職員体制においての職員の配置や資料の購入方法について説明があり、やはりメリットは図書館システムが当時１館のみであったが、全館統一できたことは良かったとの発表があった。

（福井県立図書館　永平　又行）

◎平成16年度全国公共図書館 サービス部門研究集会

10月7・8日、盛岡市において「図書館サービスの未来を語ろう～チャレンジ！できることからはじめてみよう～」をテーマに全国公共図書館サービス部門研究集会が開催された。参加者は208名で、本県からも3名が出席した。

１日目は、竹内紀吉氏による基調講演「図書館経営の今日的課題」の後、事例発表が行われた。竹内紀吉氏は、図書館の利用対象と取り扱う資料の「無限定性」、そしてそれを実現させるための図書館の経営戦略、攻撃的な運営姿勢の必要性を話された。3つの図書館の事例発表においては、各図書館の特色あるサービスについて報告がなされ、今後、自分たちの図書館でチャレンジできるサービスを探っていくうえで、大変参考になった。

2日目は、日本図書館協会事務局長松岡要氏から、情勢報告がなされたあと、全体協議が行われた。情勢報告では、図書館の「指定管理者制度」等について話され、図書館の管理運営形態の多様化を考えさせられた。

今回の研究集会の事例発表を聞き、各図書館で工夫をこらしたサービスを行っていることが分かり、「できることからはじめてみよう！」という研究テーマを改めて感じ、図書館サービスの未来を考えるよい機会となった。

（福井市立みどり図書館　三屋　陽子）

◎平成16年度日本図書館協会地方講習会
「図書館サービスの指標と評価」

講師に茨城県立図書館館内サービス課長津久井稔氏を迎えて開催された。図書館評価（目標）指標を見て暫し唖然。入館者から始まって、あらゆる項目を指標として挙げている。まず現状把握にはじまり、目標数値を設定していく。数値を設定することで、図書館サービスを客観的に見ることができる。何年か毎の見直しは必要であろう。

次に同図書館では満足度調査・周知度調査も行っている。企業・団体を対象とした周知度調査では、図書館を全く知らない人にも目を向けてもらうことができる。満足度調査では、今後どのようなサービスの提供を考えているかによって、質問内容は変わってくるが、内部だけではわからない情報・意見を聞くことができる。外部評価・数値にすることにより、職員に客観的な捉え方を意識する感覚が生れる。行政側へのアプローチが容易となる。

図書館はサービス業であり、顧客のニーズをいかにして知るかという点において、これらの指標やアンケートは必要なものであると言えるかも知れない。結果、予算要求や今後のサービスの向上に繋げることができれば、すばらしい。

（松岡町立図書館　森山　陽子）

◎平成16年度図書館司書専門講座

この講座は勤務経験が７年以上の司書を対象とした研修で、ようやく念願叶って参加することができた。10日間の研修とあって内容も幅広く、何より他館職員との情報交換の場でもあり、自館そして図書館を見つめ直す貴重な機会となった。

近年の行政評価の風潮もあってか、この講座でも図書館評価が複数の講義で取り上げられていた。図書館サービスの向上を目指すため、各地方自治体がそれぞれにふさわしい指標と数値目標を定め、評価するものであるが、現状では指標が蔵書冊数、貸出冊数など従来の統計的な数字が主となっていること、アウトカム指標が利用者満足度のみとなっていること、利用者満足度は評価が難しいことなどが指摘されていた。重要なのは評価のための評価にならないことで、各館が常に指標の意味を問いかけ、図書館サービスの改善、向上に努めねばならない。

また、図書館員の専門性の代表として取り上げられるレファレンスについては、言葉自体が一般の人にはわかりにくいので「調べもの」などなじみやすいものにしていくこと、事例集を関係資料の近くに置いたり日常的な質問を公開するなど、利用者に「図書館へ行けば何でも調べられる」と思われるような工夫が必要であるということが強調されていた。

（福井県立図書館　松井　一代）

◎平成16年度東海北陸地区図書館地区別研修

11月16日から１９日までの4日間、愛知芸術文化センター愛知県図書館を会場に研修会が開催され、前半の2日間を受講した。参加者は部分的な受講も含め156名（うち本県からは6名）であった。

第1日目は開講式のあと、文部科学省からの行政報告、続いて薬袋秀樹氏による基調講演「生涯学習の理念と施策の動向」があった。講演では、知識を基盤とした社会がやってくるが、時代の問題点や要求を把握したうえで図書館がやるべきことを考えること、指定管理者制度について無関心でいてはいけないこと、また、図書館サービスの三つのモデルをあげ、調査研究支援の重要性についても熱っぽく語られた。

2日目は午前中に「歴史資料の保存―デジタルアーカイブ化」と題して名古屋大学の逸村裕氏の講義があり、午後、逸村氏がデジタル化を手がけている岩瀬文庫（西尾市）の見学を行った。文庫には、和書を中心に8万点余の資料が所蔵されている。これらは、明治時代に個人が収集し私立図書館として公開していた蔵書である。現在も調査中であるが、一部はデジタル化され公開されている。逸村氏は、歴史資料をデジタル化することで、散在している資料との比較ができ、新たな発見をしたり、文化のふくらみを感じることができると話された。

（大野市図書館　山村　和美）

◎第24回（2004年）児童図書館員養成講座

6月28日から7月3日まで（前期6日間）と9月27日から10月2日、10月4日から6日まで（後期9日間）、日本図書館協会等において児童図書館員養成講座が開催された。受講生の内訳は、国立1名、都道府県立6名、市町村立15名で、本県からは1名の参加であった。

全科目で出された事前課題を踏まえ、前期は著作権、出版流通、建物設備、運営・計画、乳幼児サービス・ブックスタート、条例・規則、子どもの権利条約についての講義が行われ、後期は児童文学、絵本、書評、ストーリーテリング、選書・蔵書構成、ブックトーク、レファレンスの講義が演習を交えて行われた。

講座を通じて、「本を知る」必要性を痛感した。「蔵書構成、選書の価値は、ストーリーテリングやブックトークよりも上である」という講師の指摘が心に残った。

また、講師が力強く話された「“なぜ選ぶのか”といえば、子どもというのは心身ともに発達段階にあるもの。子どもの成長に有益なものを差し出すのが児童図書館員の使命」という言葉は、今後児童サービスに関わる際に支えになるだろうと思った。

他受講生との情報交換により、他県立図書館の児童サービスの様子等を知り、自館の児童サービスの在り方について改めて考えさせられた。有意義な機会だった。

（福井県立図書館　小寺　由記）

◎平成16年度東海北陸地区公共図書館研究集会「公共図書館におけるインターネット情報の提供」

図書館とインターネットとの関わりは、次の４点があげられる。図書館側からは①レファレンスツール②ホームページにおける情報発信。そして利用者側からは③インターネット公開端末④手持ちパソコンの持込み。

根本彰氏の基調講演はこの４点を包括したもので、インターネットを駆使する新しい利用者層（＝「調査する市民」）に対して現在の図書館サービスは物足りなく、情報整理・管理ひとつにしても、図書館は新しいマネジメントを求められていることを述べられた。また各事例発表では、それぞれ規模は異なるが、各図書館におけるインターネット対応への試行錯誤が紹介され、共感かつ具体的に参考となる事例が多かった。

インターネット社会において、図書館が魅力的に見え、どんどん使ってもらえるには、どうすればよいか？

図書館内でインターネットを使用する人への様々な環境整備の必要。そして図書館の外においても、インターネットで何か調べようとする人が、まずはもよりの図書館のホームページにアクセスすることを考える…というくらい、情報社会における図書館の信頼性・付加価値を高めていく必要があるだろう。

なお、高齢者への対応などの情報弱者に関する話題がほとんどなかったことは、やや残念に思われた。

（福井県立若狭図書学習センター　渡辺　力）

【特集】　全国公共図書館児童･青少年部門研究集会

児童･青少年部門研究集会の開催に寄せて

平成２年の奉仕部門以来、十数年ぶりに福井県での全国規模の大会となった今回の研究集会は、昨年11月25日、26日の２日間にわたって、福井県生活学習館ユー・アイふくいをメイン会場に開催された。

「一人一人の子どもに読書のよろこびを」を研究主題に、全国から411名の方々にご参加をいただくことができた。特に県内図書館関係者には、50名を超える参加をいただいたうえ、大会当日の運営にも多数のご協力をいただいた。この場を借りて、厚くお礼申し上げたい。

第１日目は、児童文学研究者である清水眞砂子氏の基調講演を皮切りに、中多泰子氏の基調報告、昼食を挟んで「蔵書を築く」「一人一人に届ける」「学校図書館を考える」の三つの分科会を開催した。第２日目の全体会は、中多泰子氏をコーディネーター、各分科会の助言者をパネリストに迎え、パネルディスカッションを実施した。

現在の子どもと読書についての高い社会的関心を反映してか、一般からの参加者も数多く、この研究集会が、公共図書館だけでなく、学校、地域などでの子どもの読書環境改善の一助になればと切に願っている。

（福井県立図書館長　佐々木　正博）

平成16年度全国公共図書館児童・青少年部門研究集会の準備委員になって

11月25・26日、福井県において全国公共図書館児童・青少年部門研究集会が開催された。私は約１年前からどういうわけか準備委員として計画に携わることになった。しかし、ここでテーマ、分科会の持ち方、発表者、講師、助言者、タイムスケジュール等々、すべて一から決めていく作業が始まり、準備委員の方の知識や経験の豊富なことに、ただただ感心するばかり、私は何のお手伝いもできず力量のなさを痛感した。

さて全国大会では「一人一人の子どもたちに読書のよろこびを」をテーマに掲げ、１日目は清水眞砂子氏の基調講演、中多泰子氏の基調報告のあと、①「蔵書を築く」②「一人一人に届ける」③「学校図書館を考える」の分科会に分かれ研究・協議が行われた。２日目は分科会の報告や質問に応えながらのパネルディスカッションが行われた。参加した①分科会では、図書館の立場からと書店の立場からの事例報告だったが、どの立場であれ子どもに手わたす一冊の本の大切さ、しっかりした基準の中での選書の必要性を痛感した。特に小規模図書館では、何もかも業務をこなす中での選書は大変なので、いくつかの図書館と連携して情報を交換する方法もあるという言葉が印象に残っている。

私にとって、全国大会に参加できたことはとても有意義だったが、それにも増して準備委員会で得たことが大きな力となり、貴重な体験となった。県立の方、準備委員の方に改めて敬意を表したい。

（美浜町立図書館　松井　由起子）

事務局を担当して

平成15年9月9日、第１回の研究集会準備委員会が開催された。それまで、市町村立図書館の方と関わる機会も少なく、まして児童サービスの経験がほとんどないわたしにとっては、五里霧中での始まりの日だった。その後、春を迎える頃までは、お忙しい中、ほぼ毎月のように県立図書館に集まっていただき、研究集会の内容検討に当たっていただいた。

また一方で、準備委員会の中で講師や助言者、報告者としてお名前のあがった方々とも連絡をとっていった。その中で、知識も経験も著しく不足しているわたしに、みなさん本当に心を尽した対応をしてくださったと感謝している。また、児童サービスに関わる方々の自らの仕事に対する真摯な気持ちにも、何度となく触れることができ、目の覚めるような思いをした。

今回わたしの不束さから、多くの方にご迷惑をおかけしてしまったことと思う。ただ、少なくともわたしにとって、この約１年半の経験は、今後の大きな力となってくれると感じている。

（福井県立図書館　田中　智美）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　特集　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

あわら市における合併後の運営と問題点

平成16年3月1日、金津町と芦原町の合併により「あわら市」が誕生した。それに伴い、図書館も「あわら市金津図書館」「あわら市芦原図書館」として、2館体制でスタートした。

「サービスは高いほうに」を基本に、開館時間・貸出冊数等を統一した。電算システムに関しては、旧町時代から同じソフト・業者を使用していたため比較的スムーズに統合できた。また、バーコードも両館の最初の数字が違うため旧町時代のものを張り替える必要がなく、一日も休館することなく合併を迎えることができた。

合併後の運営の大きな特徴として、共通貸出カードの導入がある。利用者はどちらかの館で旧町時代の貸出カードと市の貸出カードを交換すれば、どちらの館でも貸出・返却ができる。よって、金津館で借りた本を芦原館で返すことも可能である。その場合、芦原館では個人の貸出データのみが消え、本の貸出データは後日金津館でもう一度返却処理をして消している。また、予約に関しても両方の館から両方の資料に対して受付が可能である。芦原館で受付したものが金津館にのみ有る場合には、データで送信し、後日芦原館で受け取ることができる。それに伴う物流は、平日（火・木は金津館、水・金は芦原館が担当）のみ対応している。このことにより貸出数は、両館ともに合併前より増加している。

選書については、予算を均等割して両館でそれぞれ選書し、基本的に週一度の打ち合わせをしてベストセラーや文学等利用の多いもの以外はできるだけ重ならないようにしている。

問題点としては、土・日の物流がある。金曜日の午後以降の分が相当数あるが、火曜日まで動かすことができず利用者に不便をかけている。データの面では、郷土資料等の複本の問題がある。それぞれが自館で入力し統一マークがないため、実際には同じものが複本になっていない場合が多数ある。

今後の課題として、職員会議等を通して両館の職員間の意志の疎通を密にし、少ない職員数（金津４・５人、芦原３・５人）で、両館の資料を有効かつ迅速に利用者に提供できる体制を整える必要がある。

（あわら市芦原図書館　佐々木　幸枝）

福井豪雨を受けて

平成16年は福井県にとって忘れられない年になった。７月18日早朝より降り出した豪雨により、福井・鯖江・美山を中心に河川や道路はもちろん、施設や家屋、そして多くの人命が失われた。

図書館も例外ではなく、福井市立みどり図書館は館内に水が浸水し、地下にあった電気系統などに損害を受けた。また、美山町立図書館も浸水し、両館ともに長期休館を余儀なくされている。

これを受け、当協会で災害に関するアンケートを実施した。以下に結果をまとめた。

回答館は38館で、アンケートは５項目であった。

まず１番目は、“豪雨前から災害対策案があったか”だが、図書館独自のものを整備していた館はなかった。

次に、“実際に被災したことがあるか”だが、有ると答えた館が８館あった。福井豪雨のほかに、今年度の台風23号や阪神・淡路大震災、昭和23年の水害のほかに落雷被害にあった図書館もあった。被害内容は、浸水による汚泥堆積や落雷による電気系統の故障、雨漏りなど多種に渡った。

３番目に“福井豪雨の際にとった対応”についてだが、対応を取った館は８館だった。対策としては、資料が被害に遭わないよう移動したり、利用者や住人への情報提供や館内の点検や浸水防止などが目立った。

4番目に豪雨後の対応として、電算機器や資料を2階以上に移動したり、自然災害マニュアルの作成や水害対策用品の購入を検討している図書館があった。

５番目に“危機管理策が必要か”アンケートしたところ、必要と答えた館が31館に上った。内容は、管理職や職員の危機管理研修、災害時の対応マニュアル作成、システム管理などが多数を占めた。

最後に自由意見を記入してもらった。その中に、予防や災害時のマニュアルはもちろん、災害後に迅速に対応するためのマニュアル作りも必要とした図書館があった。また、いくつかの館では日本図書館協会から送付された「こんなときどうするの？」が参考になるという意見も多かった。

以上、アンケートをまとめてみたが、各図書館とも危機管理には関心があるが、実際どのように取り組んでよいかわからないという印象を受けた。今後、福井県図書館協会として、機会を設けて危機管理策の研修を実施したいと考えている。

（福井県立図書館　竹沢　進）

平成16年度図書館等職員著作権実務講習会

平成16年8月25日～27日の3日間、九州大学において文化庁主催による図書館等職員著作権実務講習会が開催された。

一昔前までは、著作権というとごく一部の人に必要なものだったが、今では“一億総クリエータ・一億総ユーザー時代”と言われ、すべての人に重要な意味を成すようになってきた。いつ何時、自分が利用する側から利用される側、すなわち著作権者の立場になるか分からないということである。

講習会の中で“いいことをしているのだから著作権者に無断で利用してもいいだろう”と安易に思わず、利用してもよいか迷う場合は“権利者の了解を得ることが安全かつ重要だ”と繰り返していた。そのための契約書の雛形を、文化庁ホームページに掲載する予定（今年の夏以降）とのことだった。また、図書館において著作物等を例外的に無断利用できる場合（著作権法第31条・38条）を正しく理解し、制限規定を超えた利用には注意を払わないといけないとも説明していた。

著作物をもとに活動している図書館にとって、著作権保護は重要な役割である。今後一層、図書館サービスの拡大に努めながらも、マナーを守った著作物利用を心がけなければならないと強く感じた。

（仁愛大学附属図書館　竹下　真弓）

平成16年度学校図書館活用フォーラム（中部地区）

平成16年11月29日（月）・30日（火）の両日、岐阜県で開催された学校図書館活用フォーラムに、「平成16・17年度生きる力をはぐくむ読書活動推進事業（読書活動推進地域事業）」の指定地域として展示発表を行うために参加した。参加は29日のみであり、永平寺町の小・中学校と図書館の活動状況の展示発表を行ったほか、押上武文氏（昭和女子大学教授）の基調講演「豊かな学びを創るこれからの学校図書館」、中学校第１分化会「望ましい読書習慣をはぐくむ読書環境づくり」に参加した。

展示発表は、指定地域となっている当町を含む中部地区の８市町が掲示資料と配布資料を用いて行い、当町は、各小・中学校での取り組みや町立図書館との連携を中心に報告した。また、他の地域の展示内容から、地域の特性を考慮して読書推進に取り組んでいくことが大切だと感じた。

基調講演では、学校図書館の教育的意義をはじめ、子供の読書習慣を育てていくための読書環境の整備についての話などがされ、分化会では、２つの中学校における子供と本を結びつけるための様々な取り組みが紹介された。

このフォーラムは、学校図書館に係わる人に向けたものであったが、これからの町立図書館の在り方や学校との連携の取り組み方などを改めて考える機会となった。

（永平寺町立図書館　森下　瑞恵）

平成16年度福井県学校図書館協議会この一年

５月11日（火）	第１回県学校図書館協議会役員会
５月28日（金）	第13回全国学校図書館協議会総会
６月15日（火）	ＳＬＢＣ(学校図書館ﾌﾞｯｸｸﾗﾌﾞ) 加入申込　Ⅰ期締切
６月10日（木）	第１回県学校図書館協議会理事会
７月７日（水）	第２回県学校図書館協議会役員会
８月４日（水） ～６日（金）	第34回全国学校図書館研究大会 於　滋賀県草津市
８月24日（火） ～25日（水）	第14回近畿学校図書館夏季セミナー 於　和歌山市
11月５日（金）	ＳＬＢＣ加入申込　Ⅱ期締切
12月２日（木）	第３回県学校図書館協議会役員会
１月31日（月）	ＳＬＢＣ加入申込　Ⅲ期締切
２月３日（木）	第14回全国学校図書館協議会総会
２月15日（火）	都道府県ＳＬＡ事務局長会議
３月３日（木）	第４回県学校図書館協議会役員会
３月10日（木）	『福井県の学校図書館第50号』発刊 会計監査

４月～９月	第30回県小学生読書感想文コンクール （福井新聞社主催）
６月～10月 ９月～１月	第50青少年読書感想文全国コンクール （全国ＳＬＡ・毎日新聞社主催） 第16回読書感想画中央コンクール （全国ＳＬＡ・毎日新聞社主催）

（福井県学校図書館協議会事務局　武田　純一）

平成17年度研究集会および研修会（予定）

区　分	開催地	期　間
全国図書館大会	茨城県 水戸市	2005年10月26日～28日
全国公共図書館研究集会 サービス部門	徳島県 徳島市	2005年10月６日～７日
全国公共図書館研究集会 総合・経営部門	兵庫県 神戸市	2005年11月10日～11日
日本図書館協会地方講習会	三重県	11月頃
東海北陸地区公共図書館 地区別研修	福井県	2005年11月15日～18日 （予定）
東海北陸地区公共図書館 研究集会	岐阜県	秋

平成16年度 県外研修参加状況

研修名	開催日	場所	図書館名
ＩＬＬシステム研修会	5/13～14	東　京	仁愛大学附属図書館
第2回ＩＬＬシステム講習会	6/3～4	東　京	福井工業高等専門学校図書館
目録システム講習会（雑誌コース）	6/23～25	東　京	仁愛大学附属図書館
図書館司書専門講座	6/28～7/9	東　京	福井県立図書館
児童図書館員養成講座	6/28～7/3、 9/27～10/6	東　京	福井県立図書館
国立国会図書館総合目録ネットワークシステム説明会	7/2	京　都	福井県立図書館
全国公共図書館協議会研究集会	7/6	東　京	福井県立図書館
全国視覚障害者情報提供施設協会ないーぶネット研修	7/9	京　都	福井県視覚障害者福祉協会情報提供センター
都道府県職員のための図書館研修セミナー	7/16	東　京	福井県立図書館
公立大学協会図書館協議会研修会	7/29～30	京　都	福井県立大学情報センター
第11期図書館の学校サービス実践講座	7/30	東　京	春江町立図書館
第11回医学図書館職員基礎研修会	8/3～6	東　京	福井大学医学図書館
第34回全国学校図書館研究大会びわこ・くさつ大会	8/4～6	草　津	県内25校（小・中・高その他）
図書館等職員著作権実務講習会	8/4～6	東　京	清水町立図書館
高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム	8/19～20	長　岡	福井工業高等専門学校図書館
第14回近畿学校図書館夏期セミナー	8/24～25	和歌山	県内15校（小・高）
図書館等職員著作権実務講習会	8/25～27	福　岡	福井県立図書館
			仁愛大学附属図書館
短期大学図書館全国研修会	8/26～27	札　幌	仁愛女子短期大学附属図書館
私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会研修会	9/7	津	仁愛女子短期大学附属図書館
			敦賀短期大学図書館
情報ネットワーク管理担当者研修会	9/14～17	東　京	福井大学附属図書館
北陸コンピュータ化推進協議会研修会	10/6	富　山	福井県立図書館
全国公共図書館サービス部門研究集会	10/7～8	盛　岡	福井県立図書館
			福井市立みどり図書館
新任図書館長研修	10/12～15	筑　波	丸岡町民図書館
第30回全国視覚障害者情報提供施設大会施設長研修	10/13～14	福　岡	福井県視覚障害者福祉協会情報提供センター
国立国会図書館国際子ども図書館連続講座	10/18～20	東　京	若狭図書学習センター
東海北陸地区公共図書館研究集会	10/21～22	富　山	福井県立図書館
			若狭図書学習センター
			武生市立図書館
			鯖江市図書館
			松岡町立図書館
			丸岡町民図書館
全国図書館大会	10/27～29	高　松	福井県立図書館
			若狭図書学習センター
			丸岡町民図書館
日本図書館協会地方講習会	11/10	金　沢	福井県立図書館
			松岡町立図書館
			丸岡町民図書館
中部ブロック点字図書館サービス担当職員研修	11/4～5	富　山	福井県視覚障害者福祉協会情報提供センター
中部ブロック点字図書館音訳担当職員研修	11/4～5	富　山	福井県視覚障害者福祉協会情報提供センター
ネットワーク構築セミナー	11/16～18	東　京	福井県立図書館
東海北陸地区図書館地区別研修	11/16～19	名古屋	福井県立図書館
			若狭図書学習センター
			武生市立図書館
			大野市図書館
			松岡町立図書館
第11回医学図書館継続教育コース	11/18～19	川　崎	福井大学医学図書館
全国公共図書館児童・青少年部門研究集会	11/25	福　井	丸岡町民図書館
第17回国立大学図書館協会シンポジウム（西地区）	11/29～30	広　島	福井大学附属図書館
中部地区学校図書館活用フォーラム	11/29～30	岐　阜	若狭図書学習センター
			県内23校（小・中・高その他）
			永平寺町立図書館
第16回北信越地区医学図書館員研修会	12/2～3	富　山	福井大学医学図書館
国立情報学研究所大学図書館等関連事業説明会	12/7	名古屋	福井県立図書館
第17回国立大学図書館協会シンポジウム（東地区）	12/7～8	東　京	福井大学医学図書館
国立情報学研究所大学図書館等関連事業説明会	12/9	京　都	福井工業高等専門学校図書館
日本古典籍講習会	1/25～27	東　京	福井県立図書館
全国公共図書館総合・経営部門研究集会	1/27～28	鹿児島	福井県立図書館